

小児科学

責任者・コーディネーター	小児科学講座 赤坂 真奈美 教授				
担当講座・学科（分野）	小児科学講座				
担当教員	赤坂 真奈美 教授、石川 健 准教授、齋木 宏文 特任准教授、外館 玄一朗 講師、和田 泰格 特任講師、松本 敦 助教、塩畑 健 助教、林 祐子 助教（任期付）、平井 大士 非常勤講師、荒谷 菜海 非常勤講師				
対象学年	3	区分・時間数	講義	14コマ	21.0時間
期間	後期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

小児科学は、成長と発達の過程にある小児を対象として、その身体と心の問題を扱うものである。従って、その領域はきわめて広く、胎児期、新生児期から思春期までのすべての医学領域の知識が求められる。

・教育成果（アウトカム）

乳幼児期から思春期にわたる様々な疾患について、概念と病歴、診察所見、検査所見からなる診断過程、治療法を述べるができるようになる。あわせて、社会における日本の小児医療の特徴と問題点を述べるができるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	小児の診察法の要点を説明できる。
2	病歴から問題点を明確化し、診察の要点を説明できる。
3	病歴と診察所見から鑑別診断を挙げられる。
4	鑑別診断に必要な検査計画を立てられる。
5	病歴と診察所見、検査所見から、適切なプロブレムリストを立てられる。
6	与えられた症例に関して、診断ができる。
7	与えられた症例に関して、基本的治療計画を立てられる。
8	診断に至る思考過程を論理的に説明できる。

・講義場所

講義：東1-0講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	11/11(木)	3	小児科学講座	松本 敦 助教	新生児疾患 ・呼吸窮迫 ・黄疸	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	11/11(木)	4	小児科学講座	松本 敦 助教	先天異常 ・light-for-dates児、特異的顔貌	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	11/18(木)	3	小児科学講座	赤坂 真奈美 教授	小児の診察法 ・小児の系統的診察法 ・小児期の呼吸数、脈拍数、血圧	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	11/18(木)	4	小児科学講座	和田 泰格 特任講師	内分泌・代謝疾患 ・低身長・意識障害・マススクリーニングの異常	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	11/25(木)	3	小児科学講座	林 祐子 助教(任期付)	アレルギー・免疫疾患 ・易感染性 ・呼吸困難	1,2,3,4,5,6,7,8

講義	11/25(木)	4	小児科学講座	林 祐子 助教(任期付)	膠原病等 ・発熱、関節痛 ・発熱、発疹	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/2(木)	3	小児科学講座	外館 玄一郎 講師	感染症 ・発熱、嘔声 ・頸部腫瘍、発熱、咽頭痛	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/2(木)	4	小児科学講座	齋木 宏文 特任准教授	循環器疾患 ・酸素飽和度異常 ・心雑音	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/9(木)	3	小児科学講座	塩畑 健 助教	消化器疾患 ・嘔吐、血便 ・発熱、腹痛	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/9(木)	4	小児科学講座	平井 大士 非常勤講師	血液・腫瘍性疾患 ・倦怠感 ・腰痛、疲労感	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/16(木)	3	小児科学講座	石川 健 准教授	腎疾患 ・発熱、浮腫 ・浮腫	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/16(木)	4	小児科学講座	赤坂 真奈美 教授	神経・筋疾患 ・発熱、けいれん ・けいれん	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/23(木)	3	小児科学講座	荒谷 菜海 非常勤講師	精神・心身医学的疾患 ・言葉の遅れ ・るいそう	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/23(木)	4	小児科学講座	石川 健 准教授	救急疾患 ・咳 ・けいれん	1,2,3,4,5,6,7,8

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	標準小児科学 8版	内山 聖 監修	医学書院	2013
参考書	Nelson Textbook of Pediatrics, 20th ed.	Kliegman RM, et al.	Elsevier	2016
参考書	シンプル小児科学	香美祥二編集	南江堂	2016

・成績評価方法

総括評価：試験100%により評価する。
 形成的評価：毎回小テストを行い到達度を評価する。

・特記事項・その他

診察法	1回	小児の診察法、小児期の呼吸数、脈拍数、血圧の基準値
新生児疾患	1回	新生児の分類・生理・蘇生法・管理法、成熟度評価法、呼吸窮迫の鑑別、低出生体重児、マイクロバブルテスト
先天異常	1回	単一遺伝子病の種類と特徴、染色体異常症、片親性ダイソミー、奇形症候群、light-for-dates児の分類と合併症
内分泌・代謝疾患	1回	低身長、内分泌疾患の症候と鑑別、意識障害の鑑別、マスキング、先天代謝異常症の症候と鑑別、性分化・成熟異常
アレルギー・免疫疾患	1回	生体防御機構、免疫系の発達分化、免疫学的検査、免疫疾患、アレルギー反応の分類、アレルギー疾患の診断と治療
膠原病等	1回	膠原病と類縁疾患、副腎皮質ステロイド薬・免疫抑制薬の副作用
感染症	1回	発疹性疾患の鑑別と合併症、感染性疾患、予防接種、学校伝染病、リンパ節腫脹、呼吸器疾患、呼吸困難の鑑別、酸素・人工換気の適応
循環器疾患	1回	動脈管依存性心疾患の分類と鑑別、心疾患の症候と鑑別、心不全の診断・治療、小児心電図の判読、不整脈
消化器疾患	1回	消化器疾患の症候と鑑別、緊急の診断・治療が必要な消化器疾患
血液・腫瘍性疾患	1回	血液疾患の症候と鑑別、貧血の鑑別、白血病・腫瘍性疾患の診断・治療
腎疾患	1回	腎機能検査、腎疾患の症候と鑑別
神経・筋疾患	1回	母子感染、年齢による細菌感染症の特徴、神経疾患の症候と鑑別、けいれんの鑑別と治療
精神・心身医学的疾患	1回	小児の成長・発達・栄養の評価と異常を来す疾患、健診の月齢別重点項目、言語発達遅滞の鑑別、発達障がい、心身症
救急疾患	1回	小児の救急疾患、特に誤嚥、誤飲、薬物中毒、溺水、熱傷、熱中症、虐待の発生状況と治療方針、予防

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書、講義室、PC、シュミレータ

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	症例・スライド作成
講義	タブレット兼ノートパソコン Surface Go 一式	1	講義にて使用